



令和6年度
岐阜県DX推進コンソーシアム会員
アンケート 報告
2025年2月

調査結果のポイント

1. 60%の会員がDXの導入・活用に取り組んでおり前年と比較して2.9ポイント増加、多くの会員が積極的にDX推進を進めている。
(5ページ: 2. DXの導入・活用の段階 より)
2. DXの導入・活用に取り組む会員のうち、約80%が何らかの成果を実感している。
(6ページ: 2-1. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」と回答した104者のDXの取組状況 より)
3. DXの取り組みの局面については、単なるデジタル化の段階を超え、データ活用フェーズへと移行する会員が増加傾向にあり、IoT・AIの活用に取り組む会員も増えている。また、AI・データ活用・セキュリティ対策に対する関心が高まっている。
(8ページ: 2-3. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」「取組を検討している」と回答した 138者のDXの推進状況 より)
(9ページ: 2-4. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」「取組を検討している」と回答した 138者のDXの推進状況 より)
(11ページ: 4. 業務利用や導入を考えている(関心がある)項目 より)
(12ページ: 4-1. 業務利用や導入を考えている(関心がある)項目 より)

今回の調査から、会員のDXに対する理解が深まり、より具体的な実践フェーズへと移行していることが明らかになった。今後は、これらの傾向を踏まえながら、より**高度なDXの推進を支援するとともに、会員ごとの課題に即した具体的なサポート**が必要であると考えている。

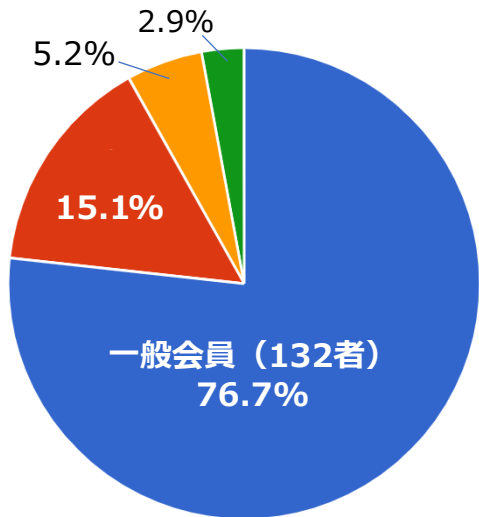
調査概要

- 調査目的
今後の岐阜県DXコンソーシアム事業実施にあたり会員のニーズを探りニーズに沿った活動の参考とするために全会員を対象にアンケート調査を実施した。
- 取得団体 岐阜県DX推進コンソーシアム
- 取得対象 岐阜県DX推進コンソーシアム会員338者
- 調査期間 2024年11月14日～2024年12月6日
- 調査方法
電子メール→郵送で記入依頼→インターネット・Fax経由で回答収集
- 回答数
有効回答数 172（回答率50.9%）

1. 回答数

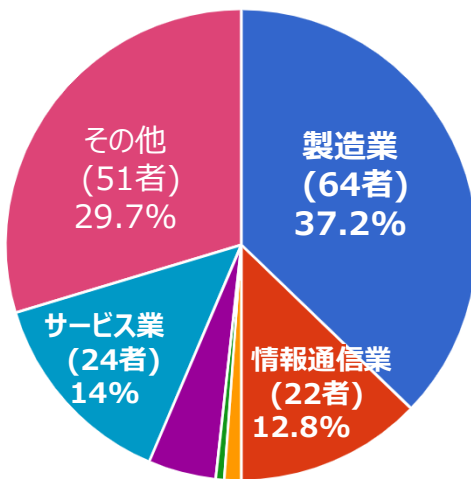
有効回答数：172（一般会員132） 回答率 50.9%

会員区分



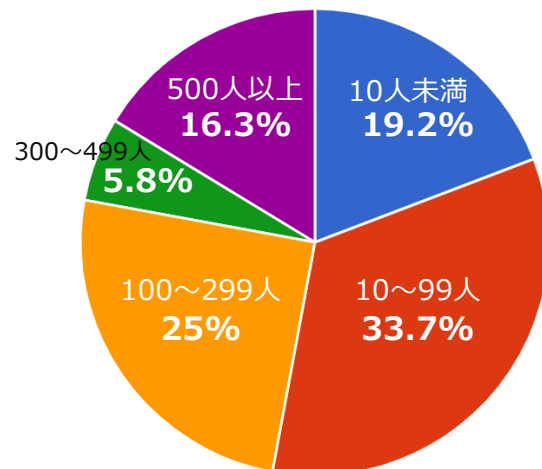
- 一般会員 (法人・個人)
- 団体会員 (業界団体・組合等)
- 学術会員 (試験研究・教育機関)
- 行政会員 (行政機関)

業種別



- 製造業
- 情報通信業
- サービス業
- その他

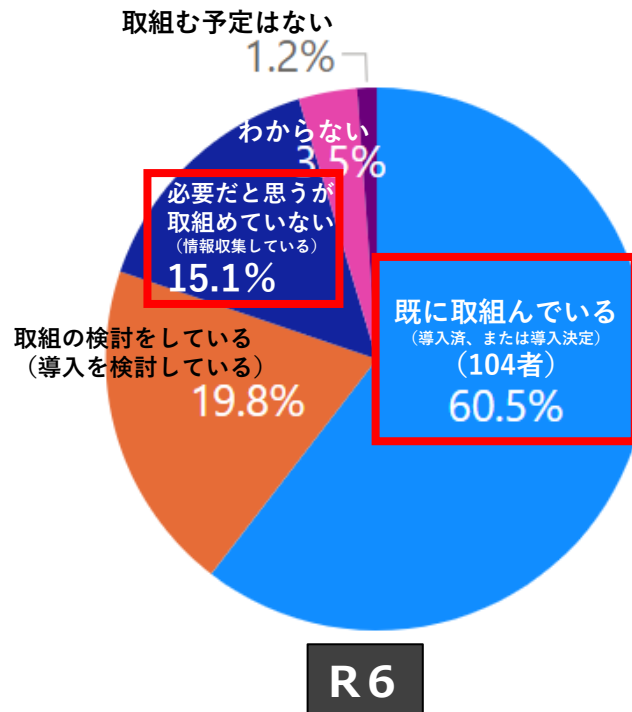
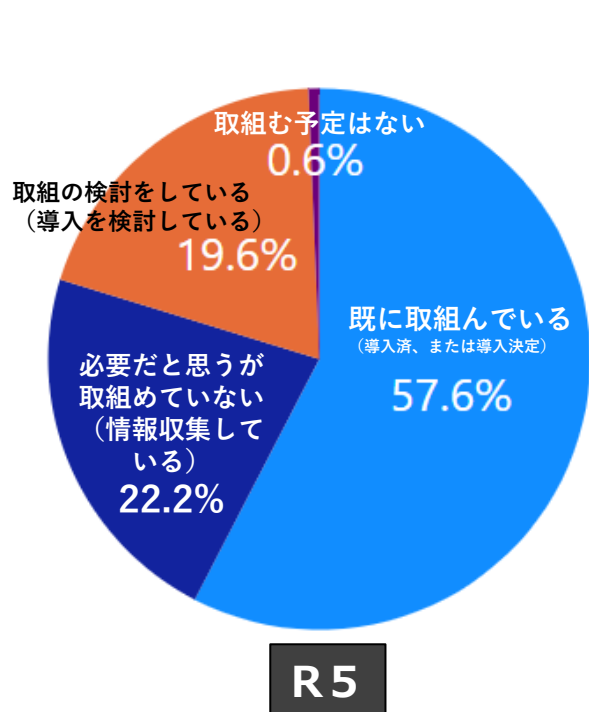
従業員数別



- 10人未満
- 10~99人
- 100~299人
- 300~499人
- 500人以上

2. DXの導入・活用の段階

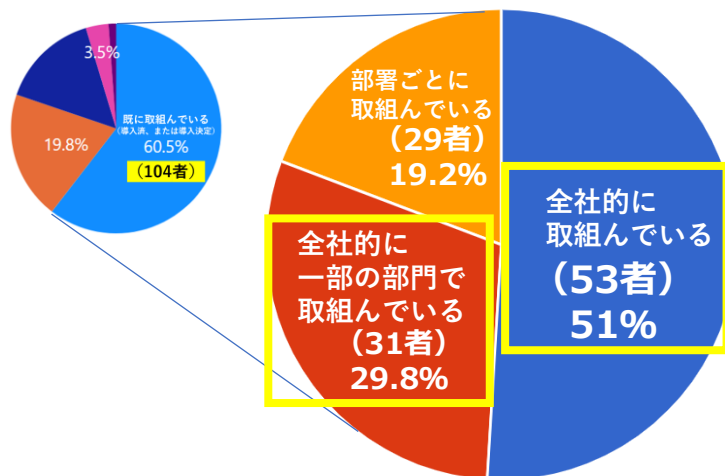
60%の会員が『既に取り組んでいる』と回答
昨年度より「取組めていない」が減少し、「取組んでいる」が微増



2-1. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」と回答した104者のDXの取組状況

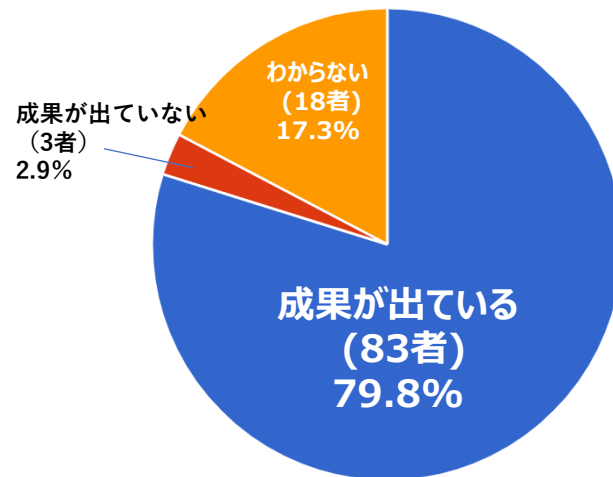
80%が「全社的」「全社的に一部の部門」で取り組んでいると回答
約80%が『成果が出ている』と回答

<取組状況について>



- 全社戦略に基づき、全社的に取り組んでいる
- 全社戦略に基づき、一部の部門においてDXに取り組んでいる
- 部署ごとに個別でDXに取り組んでいる

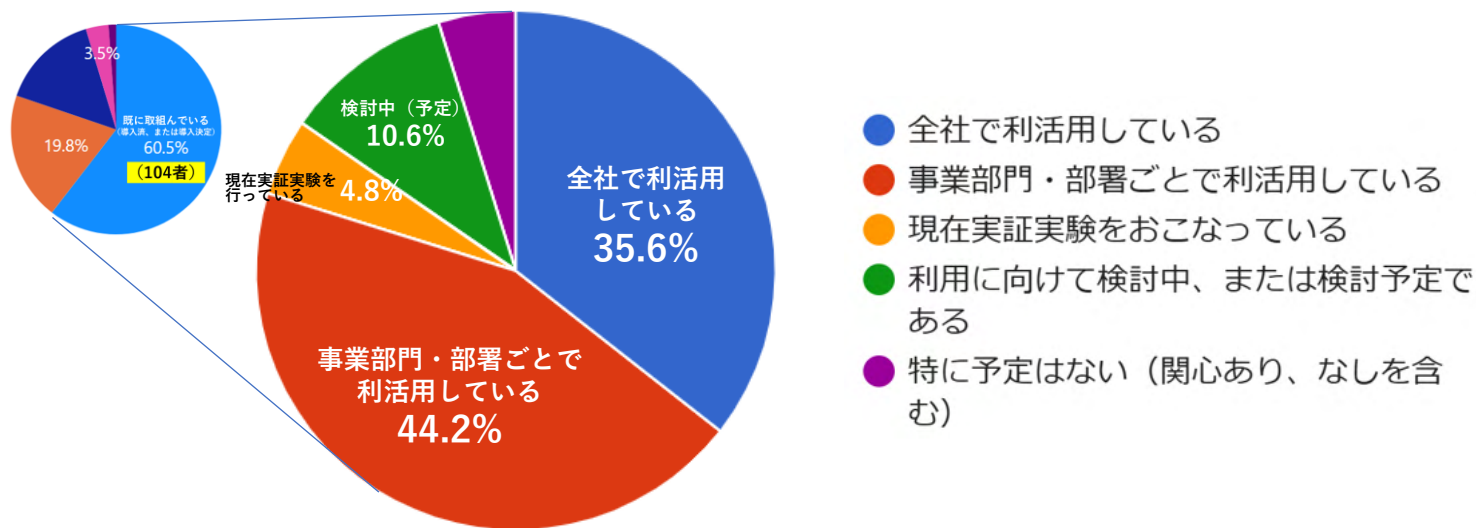
<成果について>



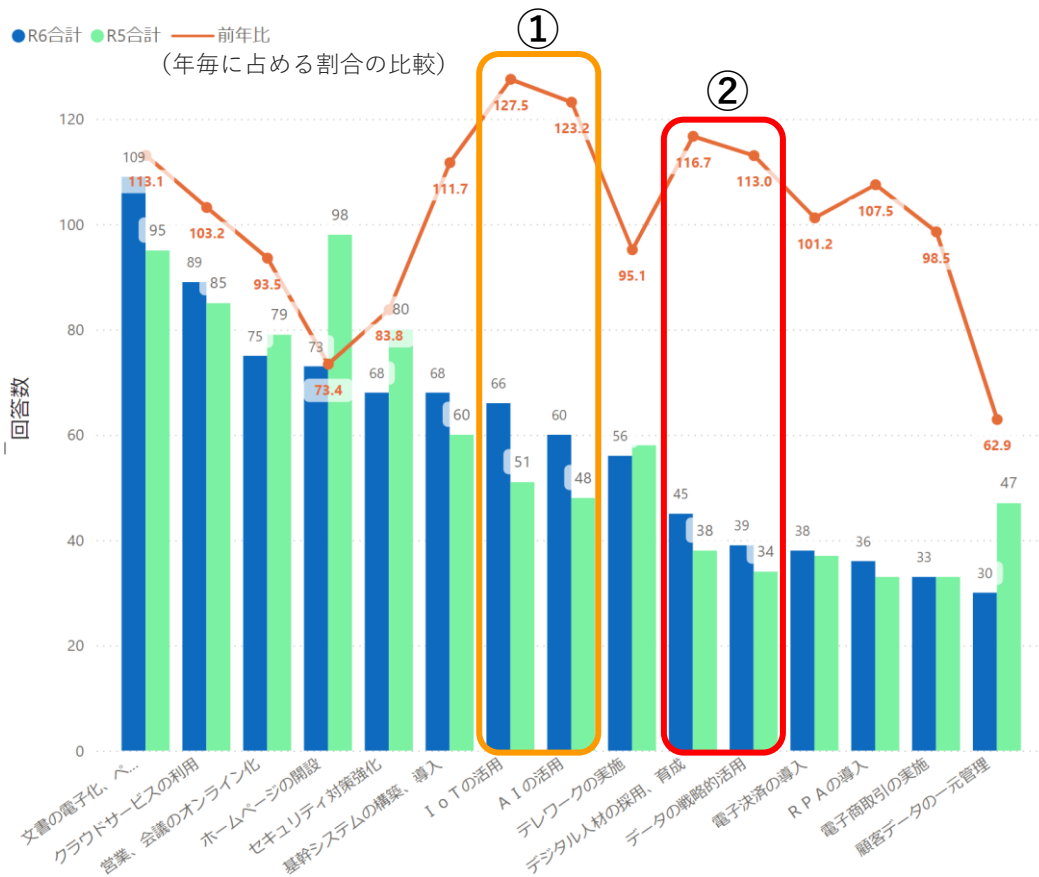
- 成果が出ている
- 成果が出ていない
- わからない

2-2. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」と回答した104者のデータの利活用

約80%で、「データの利活用」ができていると回答



2-3. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」「取組を検討している」と回答した138者のDXの推進状況



昨年度(R5)との比較

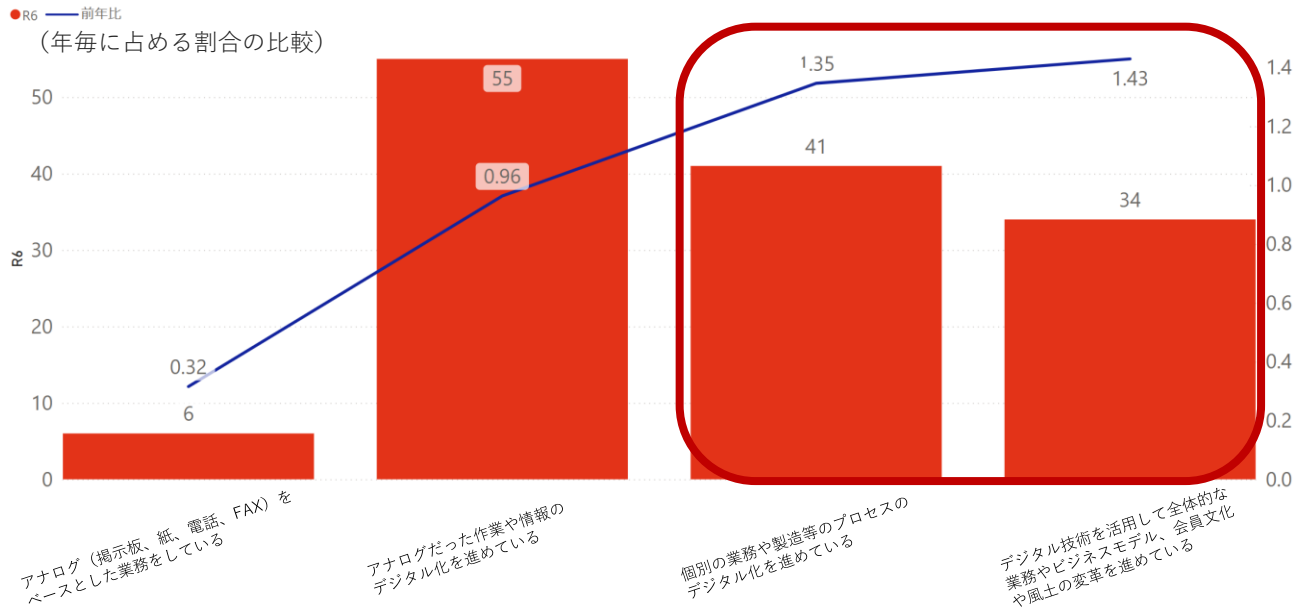
- IoTの活用、AIの活用が進み
- デジタル人材の採用・育成に取り組む会員が増加し、データの戦略的活用に取り組む会員の割合が増加

2-4. DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」「取組を検討している」と回答した138者のDXの推進状況



昨年度(R5)との比較

「アナログだった作業・情報のデジタル化」の取組や検討の段階が最も多く、
 「個別の業務や製造等のプロセスのデジタル化を進めている」段階と、
 「デジタル技術を活用して全体的な業務やビジネスモデル、会員文化や風土の変革を進めている」段階の会員の割合が増加

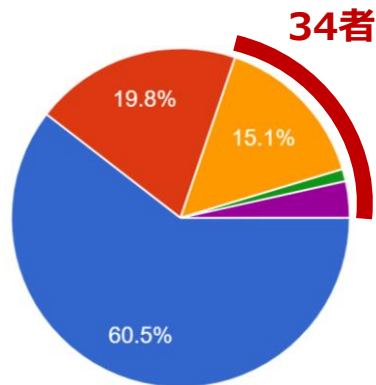


DXの推進状況

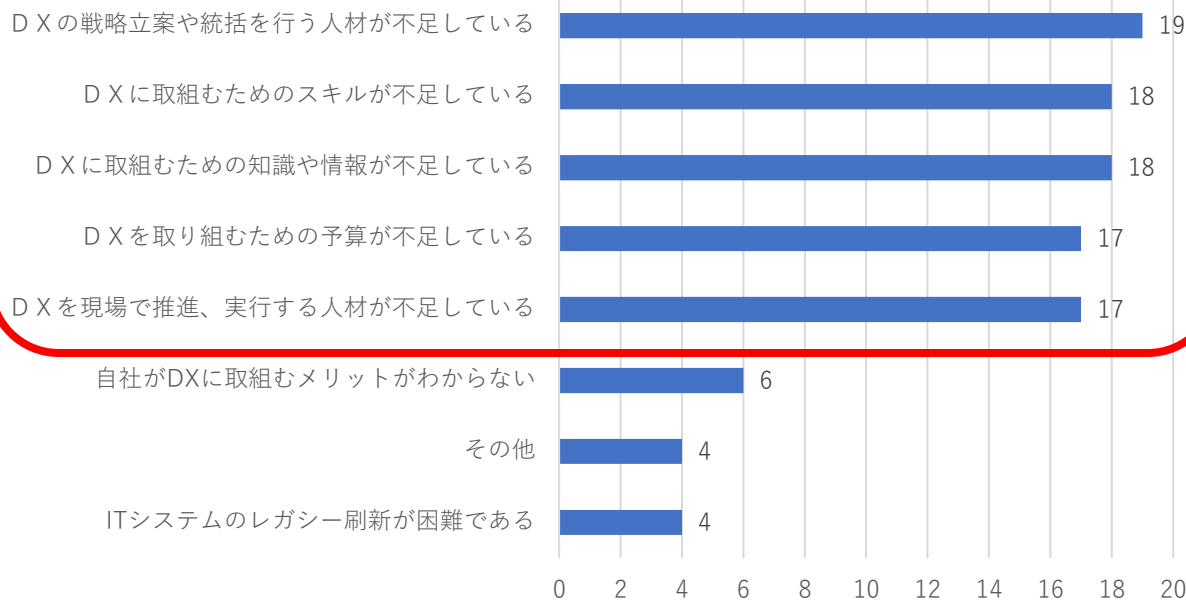
より進んでいる

3. DXの導入・活用について「必要だと思うが取組めていない」「取組む予定がない」「わからない」と回答した34者のその理由

人材・スキル・知識・情報・予算が不足していると回答

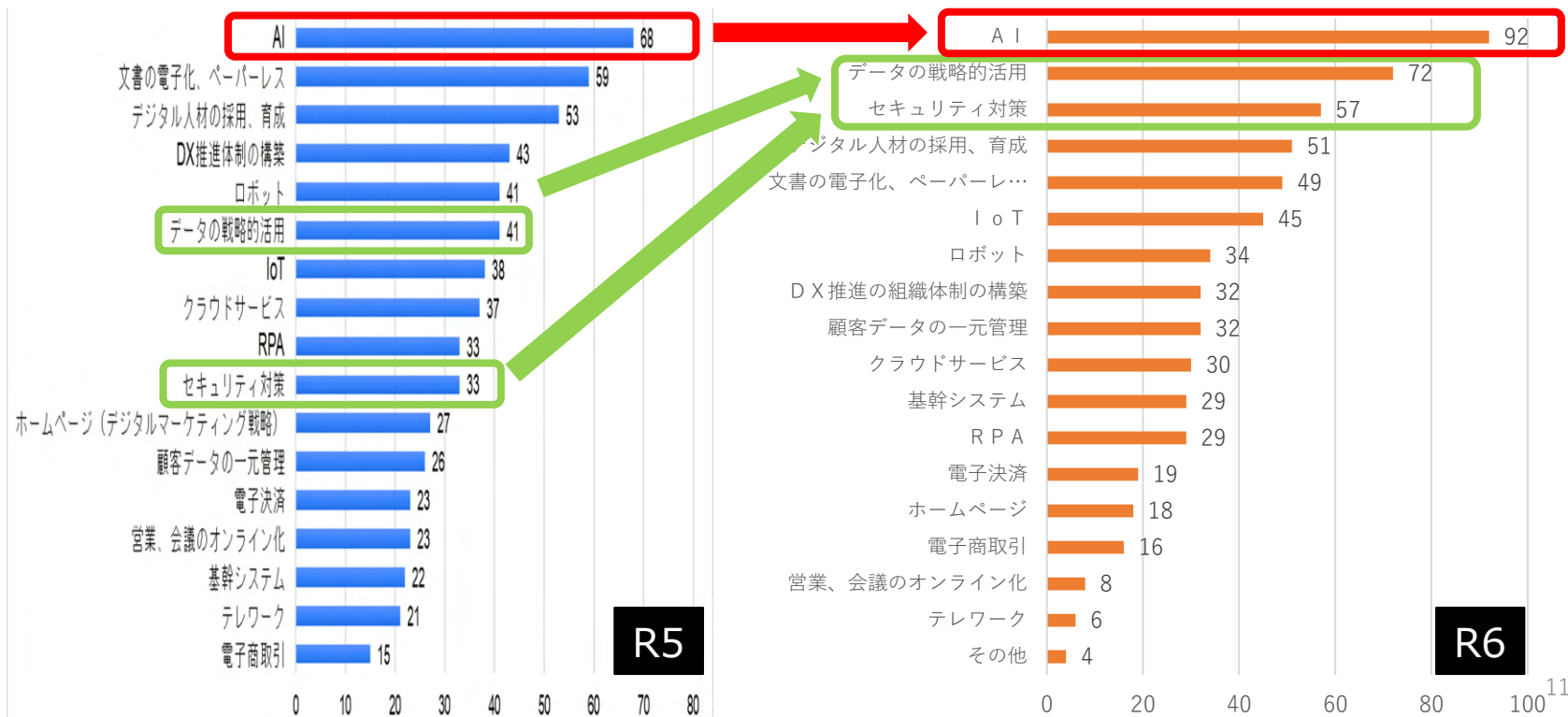


- 既に取り組んでいる（導入済み、または導入決定）
- 取り組むを検討している（導入を検討している）
- 必要だと思うが取組めていない（情報収集している）
- 取り組む予定はない
- わからない



4. 業務利用や導入を考えている(関心がある)項目

会員の関心が最も高いのは引き続き、『AI』であり、関心度合いも高まっているデータの戦略的活用、セキュリティ対策に対する関心が高まる



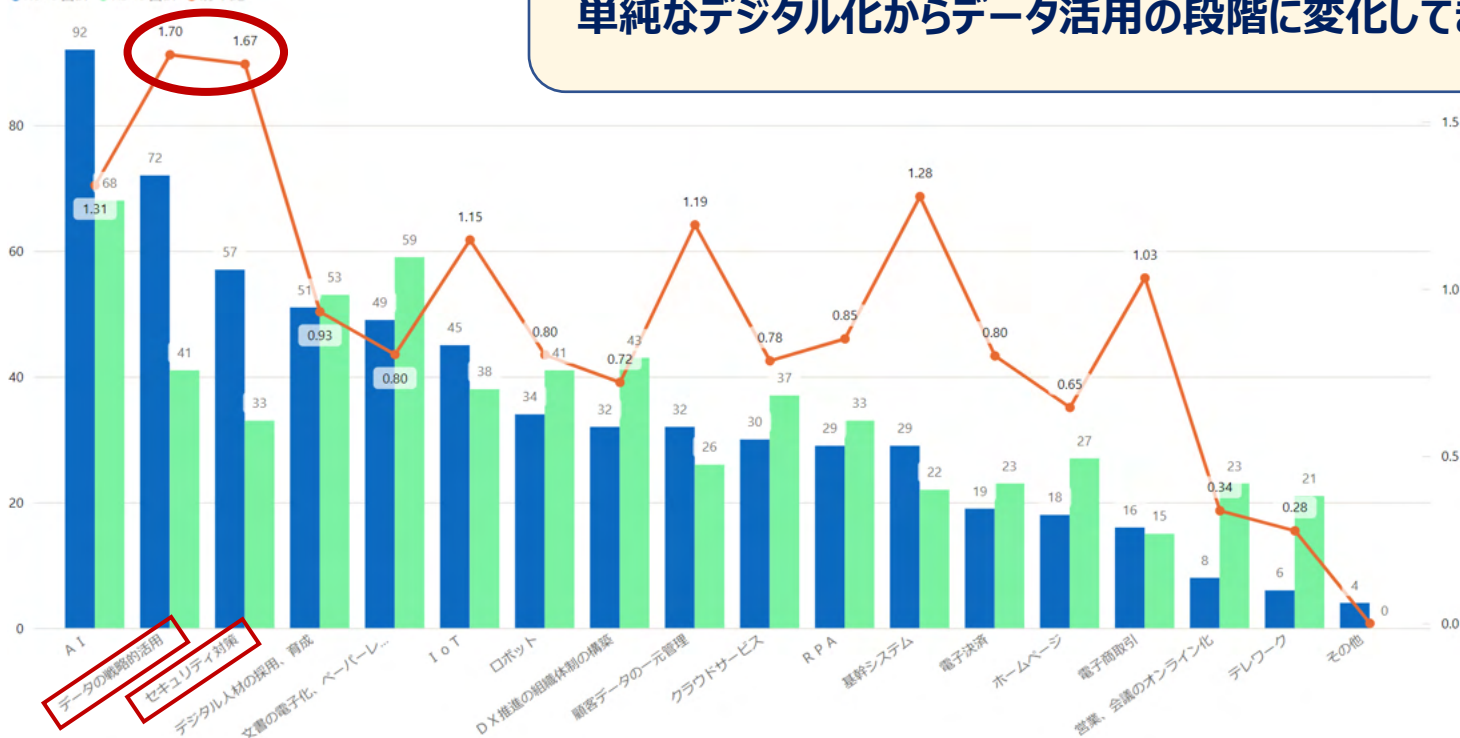
4-1. 業務利用や導入を考えている(関心がある)項目



昨年度(R5)との比較

「データの戦略的活用」「セキュリティ対策」への関心が高まり、単純なデジタル化からデータ活用の段階に変化してきている

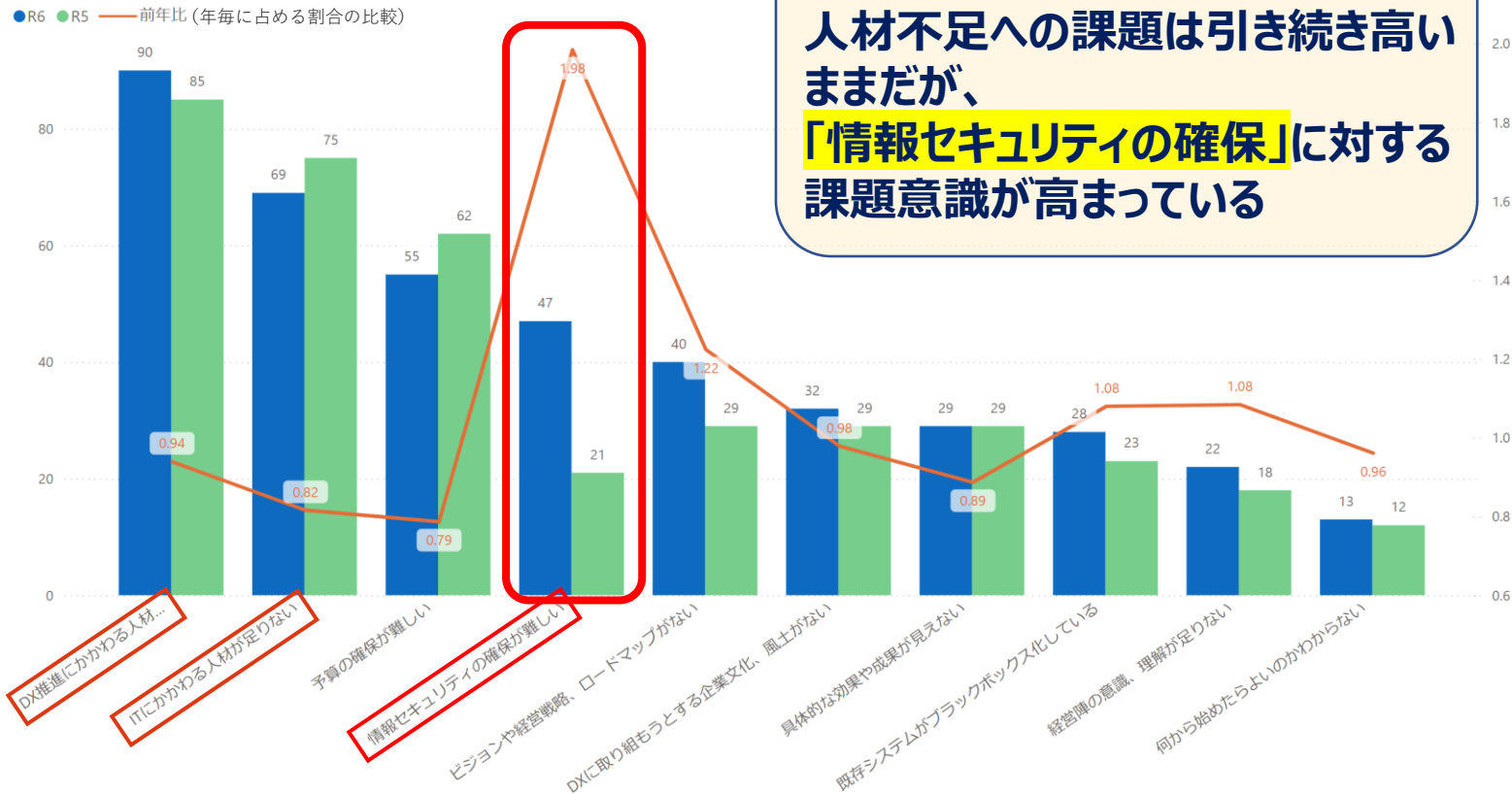
● R6の合計 ● R5の合計 ● 前年比 (年毎に占める割合の比較)



5. DX（デジタル化）に取り組むにあたっての課題



昨年度(R5)との比較

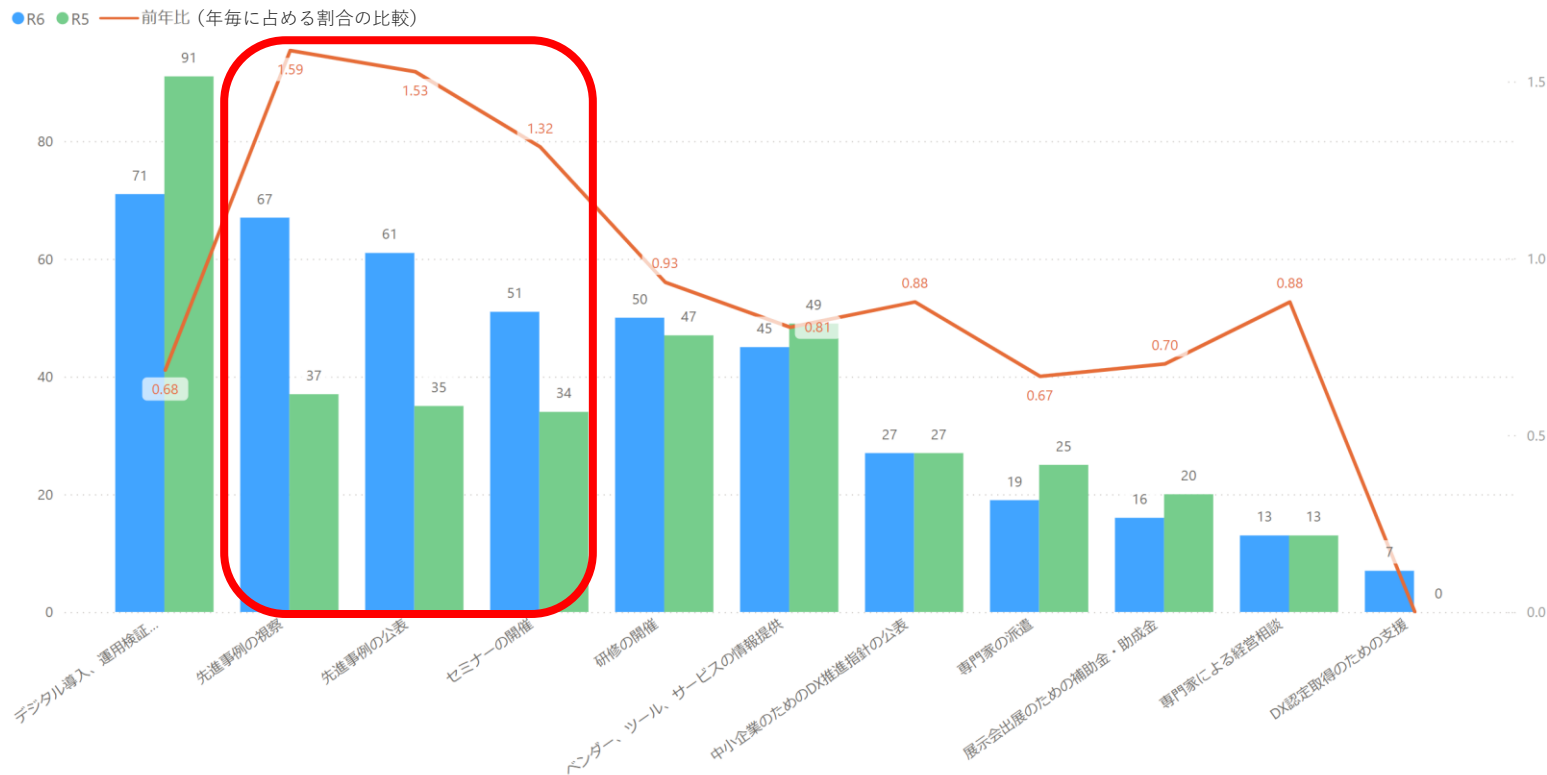


6. DXを進めるために活用したいと思う支援方法



昨年度(R5)との比較

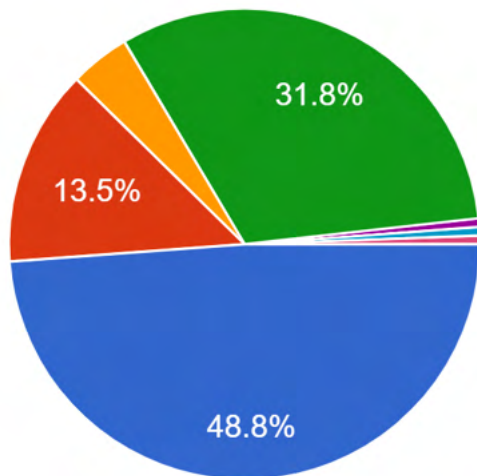
DX化推進のための「先進事例調査」「セミナー」への需要は高まり、
情報を欲する会員が増えている



7. 「人口減少社会」における労働力不足への対策として、デジタルを活用した方策

約30%で、「特に取組んでいない」と回答

①.②で取組む会員が大半であるが、対してデジタルを活用していない会員も30%に達する



- ① ● IoT・AI等における生産性の向上
- ② ● ロボットの導入
- 副業・短時間アルバイトを可能とするシステムの導入
- 特に取組んでいない。
- 業務の効率向上
- 設備の自動化
- 業務効率化（自動化、ツール化、仕組化）、属人化の排除